（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和　８年４月 14 日

県立　横須賀南高等学校長

令和７年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和６年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月９日実施）	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①普通科（クリエイティブスクール）においては、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。 ②福祉科においては、専門的な知識・技術の習得、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。 ③わかることが実感できる授業のユニバーサルデザイン化、ICT の積極的な利活用、実践的・体験的な学習などを推進する。	①②教育課程における編成および評価のあり方について研究を進め、３年間の教育課程全体が適切に配置しているか検証を進める。 ③現状の授業スタイルを様々な角度から検証し、さらに生徒がわかることが実感できる授業づくりを目指す。定期的に研究協議の場を設け、共通のスタイルの確立に向けて取り組む。	①②両科とも現状の教育課程の授業の進め方や評価基準の設定、評価方法が適正なものかどうか検討を進めていく。 ③授業見学やみなみハート会議（研究協議）において、教員同士の情報共有や意見交換を積極的に行う。	①②それぞれの学科の特色に合わせた教育課程の編成、評価基準の策定及び選択科目の設置ができているか。 ③実践例の共有や、新たな改善に向けた意見交換を目的とした授業見学やみなみハート会議を実施することができたか。 ③みなみスタイルが生徒の学習効果を与えることができたか。（授業評価）	①②両科とも、授業の進め方や評価の在り方も含め、しっかりとした体制でのぞむことができた。 ③みなみハート会議を４回実施した。特に ICT 活用について様々な意見交換や授業改善のヒントを共有できた。 ③授業評価では本校の独自の質問である４のポイントが高く、みなみスタイルの効果が見られる。	①②開校より６年が経過し、普通科・福祉科ともに教育課程の問題点を洗い出し、改善すべき点についてはカリキュラム検討委員会で検討していきたい。 ③みなみハート会議を活用し、みなみスタイルは、今後 ICT も含めその時々の生徒にあった内容を取り入れ改定していく必要がある。 ③引き続き授業評価では、みなみスタイルが浸透しているか見ていく必要がある。	①②横須賀南で何を学び、どのような力を育んでいくのか改めて考え教育課程にも盛り込んでいってほしい。 ③中学校で学習等に躓いている入学生も多い。高校の学習に追いつけるような、授業スタイル、補習なども検討が必要かもしれない。その際は、教員の負担にならないようにすることも必要である。	①②両科とも教育課程における編成および評価のあり方について検討委員会を開催し、３年間の教育課程全体が適切に配置しているか検証を進めることができた。 ③みなみハート会議において、生徒がわかることが実感できる共通のスタイルの確立に向けて取り組むことができた。 開校６年がたち、教員が大きく入れ替わる中で、本校の教育目標や育てたい生徒像の再確認を行う必要がある。	①②引き続きカリキュラム検討委員会で、本校の特色や生徒のニーズに合わせたカリキュラムの検討を行う。 ③みなみハート会議で授業の技術的な内容や研修だけではなく、育てたい生徒像を今一度話し合う場を設ける。
2	生徒指導 ・支援	①他者への理解を深め、安全・安心に学べる環境を整えるため、ルール、マナーを大切にする規範意識の醸成を図る。 ②生徒一人ひとりが抱える課題を早期に把握し、スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルワーカー（ＳＳW）および外部機関と連携した支援を図る。	①理解にもとづく規範意識の育成のため、より生徒との接触の機会を増やして、常に身近な立ち位置で、支援に力点を置いた生活指導をめざす。 ②学校行事（南高祭・スポーツ大会等）を生徒主体の行事として充実させる。 ②支援が必要な生徒について、一人ひとりに十分な検討を行う。また限られた時間の中、一人でも多くのケースについて検討する。	①生徒との接触に重きを置いた機能に変えた各種当番の意識を職員に対して常に発信し、指導と支援の連携を図る。問題行動の事前予防という観点に基づいた、巡回の意識について職員に徹底を図る。指導と支援の連携という役割を担った各種当番について、職員の意識共有の場を図る。 ②生徒会執行部が中心となり企画し、担当教員がサポートしながら話し合いを重ねて実施に向けて進めてく。 ②検討の効率化のため、生徒の支援履歴や聞き取り結果を継続的に管理できる電子ファイルを構築する。カウンセリング等業務やコア会議がより効率よく行われるようにネットワーク環境を整える	①より身近な位置で生徒との接触を図り、規範意識の向上に資することができたか。職員に問題行動の未然予防という意識の向上がはかれたか。指導と支援の連携を高めることで、効果的な生徒指導ができたか。 ②生徒主体で企画、運営できたか。 ②生徒を支援するための情報共有について工夫がなされたか。またその結果、充実した支援がなされたか。	①学年を中心とする各種の当番によって、より身近な位置での生徒の接触が可能となると同時に、常に生徒に目配りをすることで、問題行動の未然防止という意識の向上が職員に根付いた。また、生徒相談グループとの連携により、各生徒の特質の把握が容易となり、問題行動の未然防止に大いに役に立った。 ②南高祭・スポーツ大会ともに教員と生徒会執行部の生徒が話し合いを重ね、盛り上げることができた。 ②　聞き取りや支援の内容を電子ファイルに記録して時系列で一覧できるようにした。ＳＣ、ＳＳW、外部機関と連携して、医療や児相などと積極的につなぎ、学習を始めとする諸環境の維持に努めた。	①毎年、職員の転出入が多い本校にあって、様々な業務の手続きや役割といった業務継承は可能であっても、職員の「意識」の継承が困難である点が問題である。 ②新入生に対して実施する部活動紹介で新入生に興味を持たせ、部活加入率を上げ、活動を活発にする ②情報共有を定期的にあるいは随時行うことができた。一方で週１回のグループ会議で扱う生徒数は 20 人にもなり、共有の先の支援については話し合えず、担当者個々に任せざるを得ない。	①　様々な生徒がいる中での指導には時間も要する。先生方の苦労も察することができる。人的配置だけで解決する問題ではないが、それも１つの課題である。 　丁寧な指導は、生徒が社会に出る前に身に着けるべきマナーやルールの徹底のために有効であり、継続していくべきだと感じる。 ②　生徒一人ひとりで抱える課題は多い。このような学校に SC や SSW が複数、常置されることを望んでいる。	①問題行動を起こした生徒からは丁寧にいきさつや背景を聞き取り、指導だけではなく必要に応じて支援も行い、生徒の更生に努めた。 　また、授業中も学年ごとに授業者以外の教員が生徒に接触を行いながら見守りを行った。 ②文化祭やスポーツ大会は生徒が主体となって実施することができたが、部活動は全体的に活性化することができなかった。 ②電子ファイルを活用し、迅速な情報共有はできたが、対象生徒が多く、十分な検討が行われなかった。	①各学年の授業中の見守りをさらに全教員が同じ意識のもとで実施するよう確認の場を設ける。 ②部活動の活性化のための具体的な取り組みを検討する。 ②支援を必要とする生徒の状況を判断して、時間をかけて支援方法を検討する生徒を選択する。

	視点	４年間の目標 （令和６年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月９日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路希望に応じた適切な支援を充実させる。 ②SCC と連携しながら３年間を見据えた計画的な進路指導の充実を図る。	①生徒・保護者と進路希望を共有して適切な支援に繋げる。 ②SCC と連携し、キャリアプログラムの実践を通して生徒の社会的・職業的自立と主体的な進路選択を可能にする力を育む。	①キャリアパスポートの活用や各種面談を活用し、生徒・保護者の進路希望の把握に努め、適切な支援を行う。 ②３年間のキャリアプログラムの中に福祉科・普通科共通のプログラムを組み込む。	①生徒・保護者の希望に沿った進路実現を支援するとともに、進路実績の維持向上が図れたか。（進路実績） ②福祉科、普通科共通の進路プログラムが完成したか。	①今年度の進路決定率も 90％を超えることができた。キャリアプログラムの実践や SCC、SSW と連携した丁寧な個別支援が効果を上げた。 ②進路校外学習、ハローワークや進路関連機関等の情報交換会、卒業生や３年生の進路活動報告会などが定着した。	①社会的・職業的自立と進路実績 90％超の維持を目指し、継続してキャリアプログラムの成熟と実践に努める。 ②職業観の向上を目指し、生徒一人ひとりの進路希望と実態像に寄り添った進路プログラムを継続して検討する。	①様々なキャリアプログラムの充実や丁寧な個別指導が実を結んでいる。今後も生徒一人ひとりの進路実現に向けて取り組みを進めていただきたい。 ②SCC が常置されている強みを生かし、進路プログラムの充実を目指してほしい。	①３学年団と SCC が一体となって進路指導を行った結果、進路決定率が 90％を超えることができた。 ②SCC と連携を密にし、キャリアプログラムを実践しながら、校外進路学習や各種校内ガイダンスが定着し、主体的な進路選択ができるようになった。	①今後は面談やガイダンスを通して早い時期からの進路実現に向けた取組みを行う。 ②さらにキャリアプログラムをブラッシュアップして、ミスマッチのない就職選択に向けて取組む。
4	地域等との協働	①地域の企業や福祉施設と連携した教育活動を推進する。 ②地域貢献活動やイベント等への参加による開かれた学校つくりを推進する。	①地域企業や福祉機関と連携し、生徒の社会参加と職業的自立に向けた意識向上を図る。 ②広報活動を積極的に行い、中学生やその保護者、本校生徒の保護者や地域の方々に学校の教育活動に対しての理解を深める。	①地域企業や福祉機関と連携した職業人講話を実施する。また本校独自のインターンシップ体制を構築する。 ②学校説明会やホームページの更新によって、学校の特色や教育活動を積極的に伝えていく。	①生徒の主体的な進路選択に繋がるようなインターンシップや職業人講話の実施と充実が図れたか。 ②学校説明会への参加者が満足いく内容だったか（アンケート実施） ホームページを定期的に更新することができたか。	①企業講演会や進路関係機関による進路情報連絡会を実施した。協力企業及び関連機関の数が増えている。 障がい者就労に関わる連絡会に参加し、適切な情報提供に努めた。 ②フォームでアンケートを実施したが回答率が低かった。その中でも個別相談等の丁寧な対応に対する評価は高かった。 ホームページについては、古いデータを更新することが中心となり、定期的更新は進まなかった。	①本校の進路指導・支援に協力いただける地域企業、学校、関係機関との関係強化と拡大に努める。 ②３回の学校説明会は、それぞれ実施方法が異なり、中学生や保護者のニーズに応えることができた。アンケートはフォームでなく紙ベースに戻すことも検討する（回収率の上昇）。 ホームページの更新ができる教員を増やし、更新がしやすい環境を整える。	①実際に企業や卒業生が活躍している様子を聞ける機会があることで、より現実的に進路選択の幅が広がっていくと考えられる。 ②今年度は生徒が学校説明会に協力し、好評だったと聞いている。今後もこのような活動を行い、横須賀南高校で学ぶとこのように成長できるのだという見本になってほしい。	①地域企業の講演会や企業との進路連絡会を実施したりして、外部のインターンシップに参加する生徒も増え、職業人講話の充実が図れた。 ②学校説明会の実施方法を変更したり生徒を参加させたりした結果、参加者の満足度は高かった。 ホームページによる様々な行事や教育活動の紹介が充分にできなかった。	①地域企業との講演会や進路連絡会を定着させ、生徒が社会へ出た時に自立した生活を送れるようにする。 ②働き方改革を踏まえた学校説明会の在り方を検討する。 ホームページを充実させる方法を検討する。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安全・安心に学ぶための防災計画策定や施設設備等の点検・整備を進める。 ②全職員で不祥事を防止する。 ③職員が学校教育計画を共有するとともに学校運営協議会からの意見を反映していく。	①日常的に環境整備を進め安全・安心に学校生活を送れるよう努める。	①計画的な防災教育や環境等の整備などを組織的に行う。	①計画的な防災教育や環境等の整備が実施できたか。（整備実績にて）	①生徒が安全・安心に学ぶための教育環境等の整備について的確に実施できた。	①教育リソースが多様化する中で，活用しやすいしくみと配分を考えることが課題となる。	①防災教育の充実や ICT 活用に向けた環境整備を継続して行っていただきたい。	①計画的に防災訓練や防災教育が実施できた。 生徒が安全で安心して教育活動が行われるよう ICT などの環境整備に努めた。	①より実践的な防災訓練を実施して、万が一の際に混乱しないよう図る。 教育環境を定期的に確認して、教育活動がより円滑に行われるように努める。